
女子高生禁断の秘蜜



注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

女子高生禁断の秘密

【Nコード】

N4504D

【作者名】

○

【あらすじ】

理香は自分の心臓が早鐘のように打つのをどこか遠くで聞いているような気がした。そんな感じの話です。

木々の隙間から太陽の光が照り付けている。

理香は額に汗の玉を作りながら、目の前の一点を身じろぎもせず見つめている。

薄暗く陰になったその奥。熱を持った視線の先には鈍く光を反射する蜜。

薄い唇は少し荒くなった吐気を逃がそうと少し開き、猫のようといわれる瞳は一点に固定したまま動かない。

理香は気付かないうちに、膨らみかけた自分の胸へと手をやっていた。

何かを静めるように深呼吸を二、三回繰り返す。

胸の動きが落ち着いてきた理香は、華奢な手を蜜に向かって伸ばそうとする。

ゆっくりと伸びていく手が、少し震える指の先が蜜に触れる。

ぬちゃり

ねっとりとした感触が指先から伝わってくる。その感触に理香の体が少し痙攣した。

一瞬息を止めた理香が指に蜜を絡ませようとする。しかしその指は背後からの音と共に動きを止めた。

振り向いた理香が見たのは迫ってくる黒い影。

とっさに逃げようとした理香、しかし足は意思に反して動こうとしない。

肉体と精神が解離して動けない理香を黒い影が襲う。

「やだっ、いやっ！」

黒い影は理香の制服の隙間から容赦なく侵入してくる。

為す術もなくただ立ち尽くす理香の身体に、黒い影の武器が差し

込まれた。

「痛、痛い！」

理香の叫びがざわめく緑の合間を風と共に駆け抜けていく。
少女の悲鳴はどこにもたどり着く事無く木々の狭間に消えていった。

太陽は赤く傾き山の陰に隠れようとしている。

理香は泣きながら一人道を歩いていた。

大きな田舎の一軒家に辿り着いた理香は、その前で立ちすくむ。

「理香……？ どうしたのその顔は」

家から理香と雰囲気の似た女性が現れて理香に近づいてきた。

「お母さん、私、私……」

理香の目から涙が溢れる。お母さんと呼ばれた女性は理香の様子を見て、全てを悟った。

「もう、だから勝手に巣箱に近づいちゃ駄目って言ってるでしょ」

「だって……だって蜂蜜……欲しかったんだもん」

母親が呆れた様子で理香を見る。

「今度からネットくらいかぶっていきなさい」

「……うん」

理香の肌のように赤く熱を孕んだ太陽は西の地平線に追いやられ、世界は静かな夜を迎えようとしていた。

(後書き)

ごめんなさい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4504d/>

女子高生禁断の秘蜜

2010年10月10日07時52分発行